

『SS3』から変更された『SS7』の主な内容

この資料は、『SS3』をご利用いただいているお客様が、『SS3』データを『SS7』に転送されたり、『SS7』を新規データからご利用になる際の参考となるようにまとめたものです。

『SS3』から変更された内容と『SS7』で追加された内容をご説明します。

内容は、『SS3』と『SS7』の相違点すべてを掲載したものではありません。

詳しくは、『SS7』解説書をご参照ください。

※資料の作成時点の『SS7』のバージョンは1.1.1.9です。

項目によっては画面周りが現在のバージョンと異なっていることがあります。

SS3リンク時メッセージ対象

『SS3』の計算条件や入力データが『SS7』と異なるとき、リンク時メッセージの対象になることを示します。

SS3から場所移動

『SS3』から入力ツリーメニューの場所が移動したことを示します。

構造心とのズレ

SS3

1基本事項 - 11.構造心とのずれ

基本事項

基本事項 1 | 基本事項 2 | 重力加速度 |

1. 工事名(W) SKビル新築工事

2. 略称(A) SKビル新築工事

3. 日付(D) 2016/06/30

4. 担当者名(C) ユニオンシステム株式会社

5. 建物概要(B)

X方向スパン数 5

Y方向スパン数 4

全階数 5

地下階数 0

PH階数 0

6. 主体構造(S)

<1>RC

<2>SRC

<3>S

<4>CFT

各層主体構造... 13

7. X方向基準スパン長(X)... END

8. Y方向基準スパン長(Y)... END

9. 階高(標準梁天間距離)(Z)... END

10. 各層梁天から部材心までの距離(E)... INPUT

11. 構造心とのずれ(G)... INPUT

12. 部材の寄り(M)... INPUT

13. 梁のレベル調整(R)... INPUT

14. 各層スラブ厚(T)... INPUT

訂正 No.(O): OK ヘルプ(H)

SS7

1.基本事項 - 10.構造心とのズレ

指定（チェック）により、自動計算します。
自動計算では、フレームごとに全部材（全階）の通り心と柱心とのズレを平均します。

基本事項

1. 基本事項 | 基本事項

1. 工事名称 SK新築工事

2. 略称 SK新築工事

3. 日付 2016/06/30

4. 担当者名 ユニオンシステム株式会社

5. 建物概要

X方向スパン数 6

Y方向スパン数 5

全階数 11

地下階数 0

PH階数 0

6. 主体構造

1:S 4:CFT

2:RC

3:SRC

各層主体構造... 2

7. 基準スパン長... 入力済

8. 標準階高... 入力済

9. 標準階高と梁心の差... 自動

10. 構造心とのズレ... 自動

11. 部材の寄り

12. 梁のレベル調整

13. GLから1階床

14. パラペット高さ

基本事項 - 構造心とのズレ (フレーム単位)

Xフレーム	ズレ mm	Yフレーム	ズレ mm
1	0	A	0
2	0	A'	0
3	0	B	0
4	0	B'	0
4a	0	C	0
4b	0		

自動計算

閉じる

ヘルプ

基準スパン長が軸心間距離となります。

部材の寄り指定することで、実寸に近い形状になります。

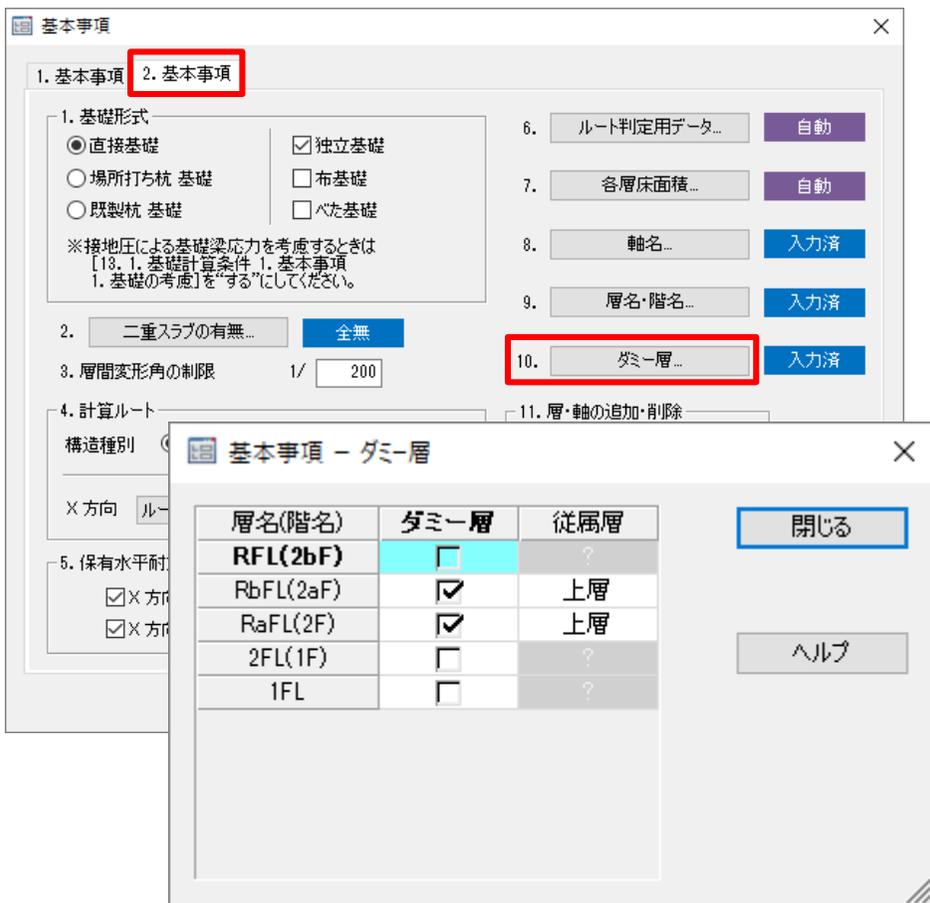
注意: 構造心は[10. 構造心とのズレ]の入力により定まります。

ダミー層

SS7

2.基本事項－10ダミー層

- ・複数の層をまとめて同一階として扱いたい場合にここでダミー層を設定します。
- ・解析上の主な扱いを次ページ以降に示します。
- ・詳しくは、別途SS7特殊形状講習会を受講してください。



一本部材の指定

SS3

12.7.2 一本部材の指定 - 1. 梁

12.7.2 一本部材の指定 - 2. 柱

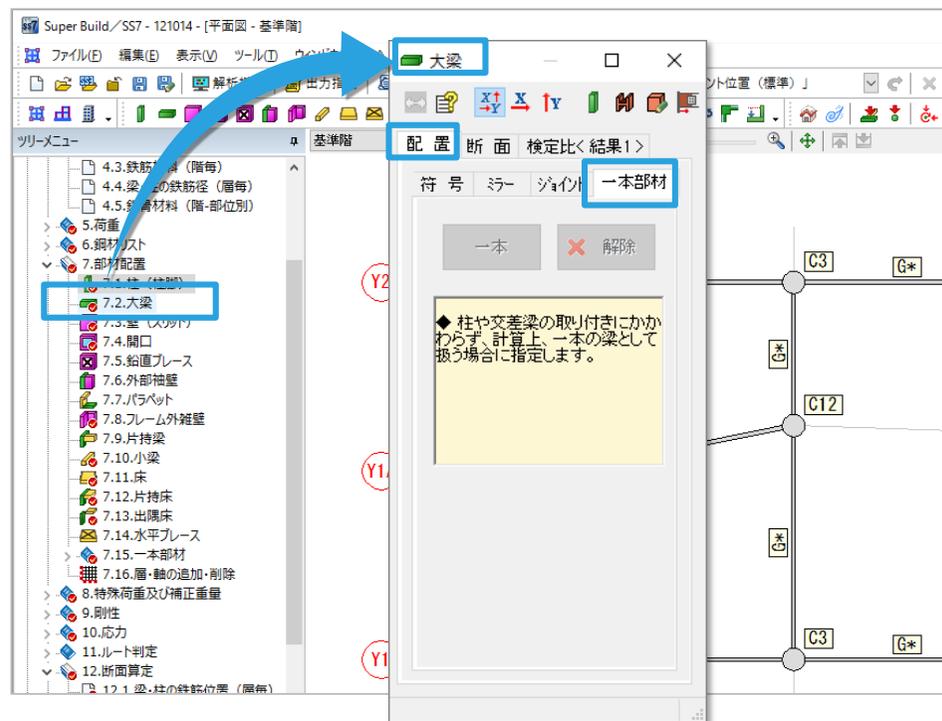


SS7

7.部材配置 - 2.大梁 - 一本部材

SS3から場所移動

- ・ マウスにより、部材毎に指定できます。
- ・ 柱も同様に、「7.部材配置 - 1.柱 - 一本部材」で指定できます。



『SS3』 使用者様向け 『SS7』 講習会ガイド

基本操作と新規入力

【基本操作の確認】

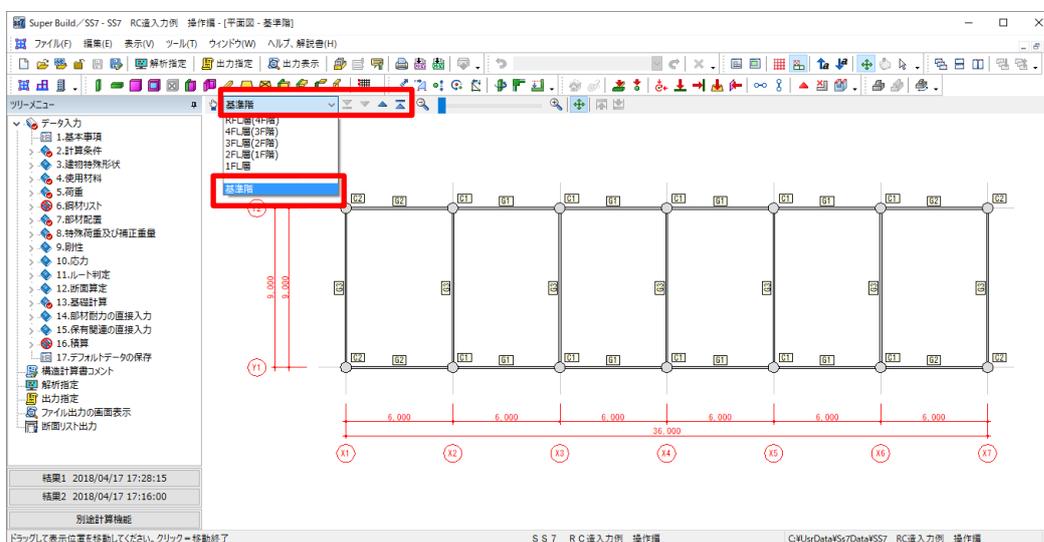
SS7 を起動し、ファイル→開くから「SS7 RC 造入力例 操作編」を開いてください。
後ほど、このデータを新規入力して作成します。

【層の選択】

平面図の基準階が表示されます。

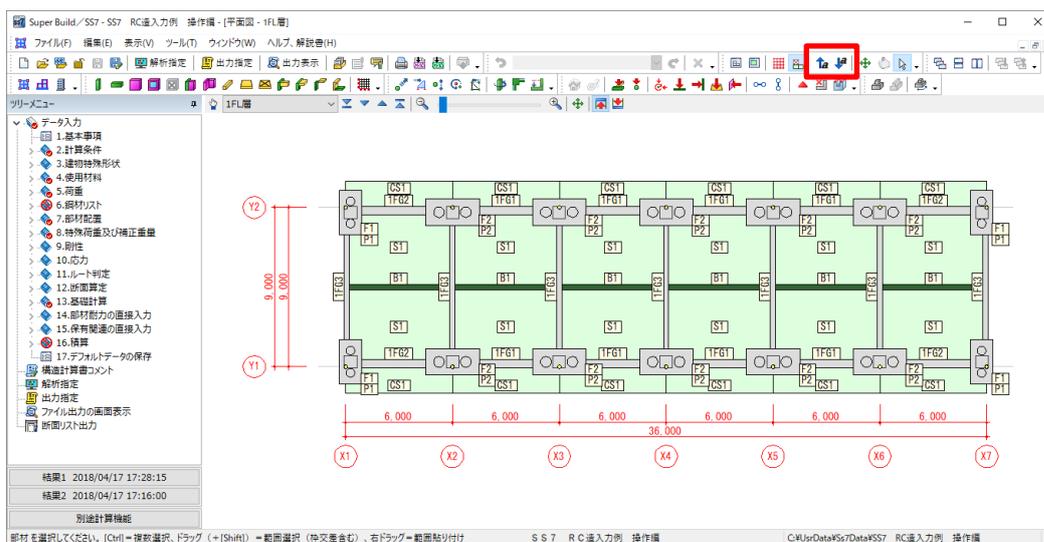
基準階では、柱・梁の配置（全階一括配置・各階の断面は部材ウィンドウの断面リストで登録）と節点移動（軸振れ）・節点の回転移動が可能です。

基準階の表記右横の  をクリックしてプルダウンリストから 1FL を選択してください。  のクリックでも 1 層ずつ上層または下層に移動します。 は最上層に移動、 は最下層に移動です。



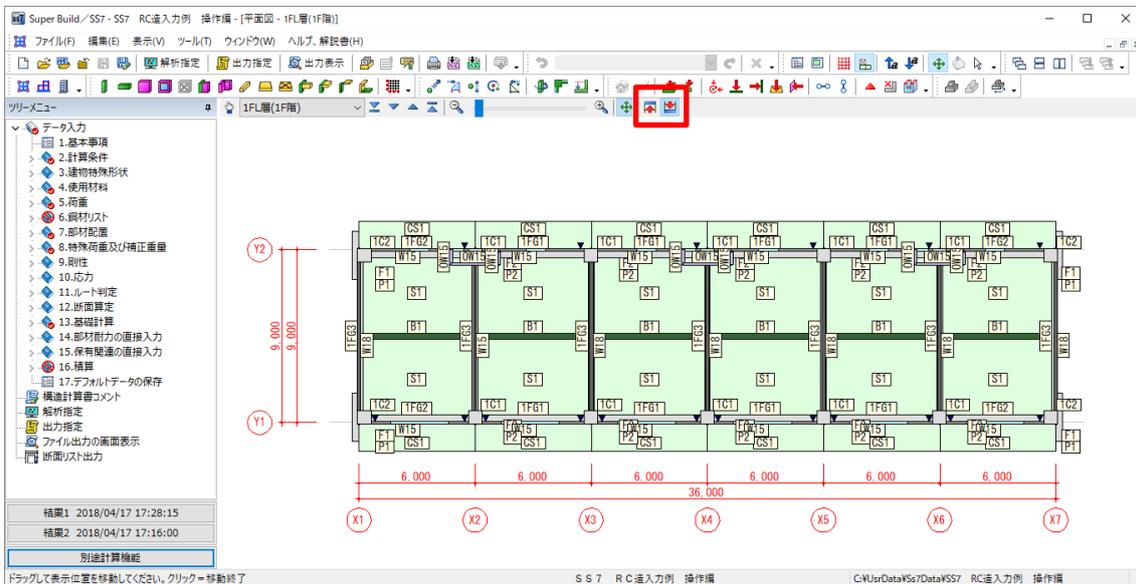
【文字サイズの調整】

1FL 層を表示し、  で図面ウィンドウの文字サイズを調整してください。



【見上げ・見下げの選択】

平面図の (見上げ)・ (見下げ) のアイコンで[見上げ]・[見下げ]を指定できます。下図は IFL を見下げにした場合。



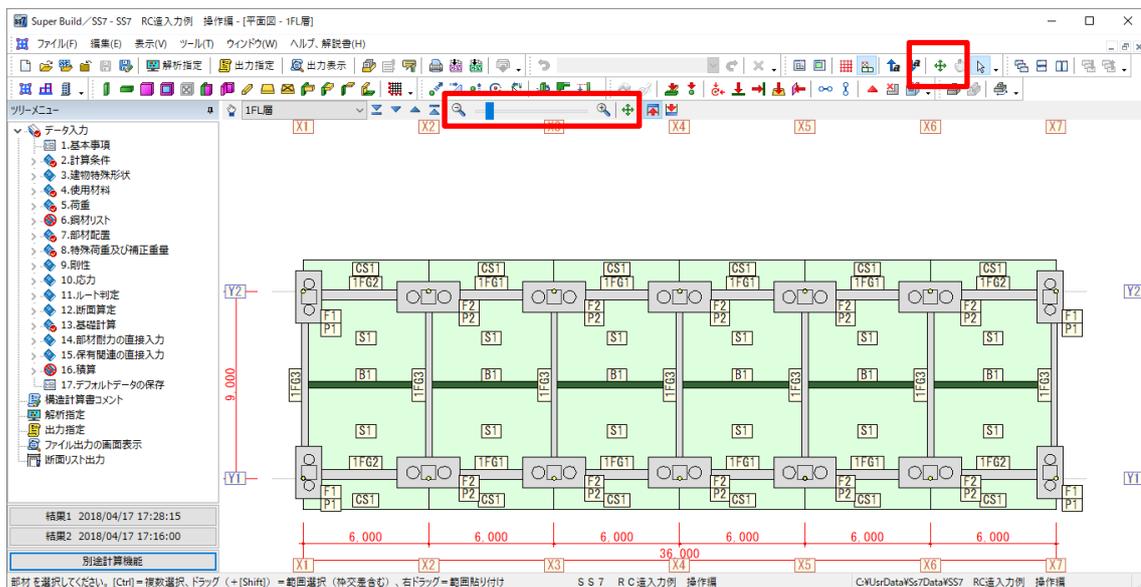
【移動と拡大・縮小】

 をクリックすると「移動と拡大・縮小」モードに移行します。マウスポインターは手のマークに変わり、ドラッグする（左ボタンを押しながらマウスを動かす）ことで建物が上下左右に移動します。

「拡大・縮小」はスライダーを左右に移動させるか、 と  のアイコンでも拡大・縮小します。

※マウスのホイールを動かすと「移動と拡大・縮小」モードへの移行と「拡大・縮小」を兼ねています。前に回すと拡大、後ろに回すと縮小します。スライダーを左端に移動すると全体表示です。

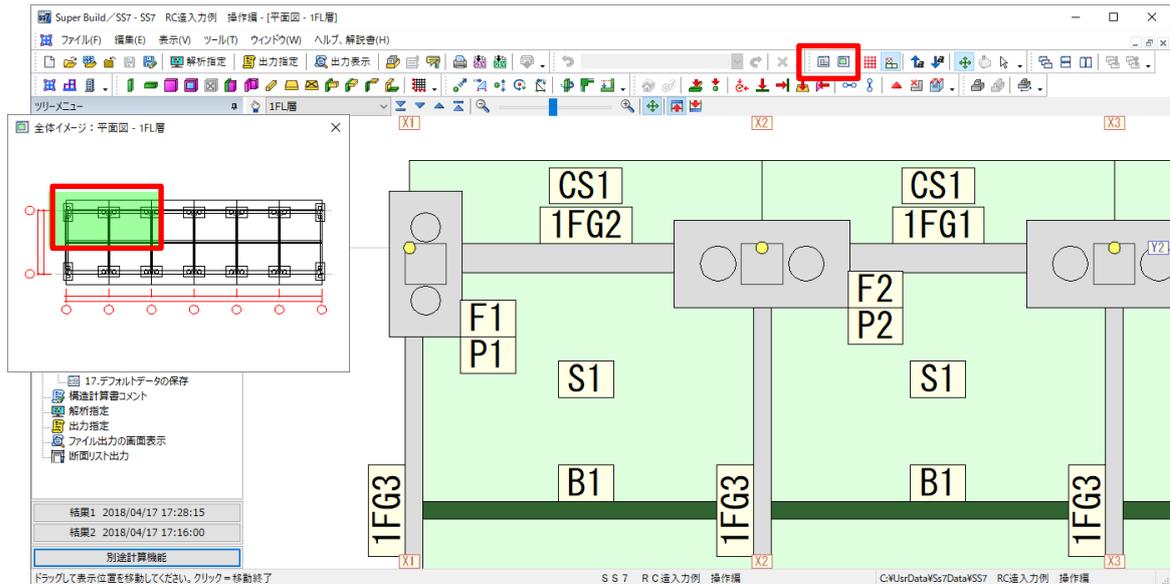
※キーボードの↑↓→←が移動、PageUp・PageDown が拡大・縮小に対応します。



【全体イメージ図の表示】

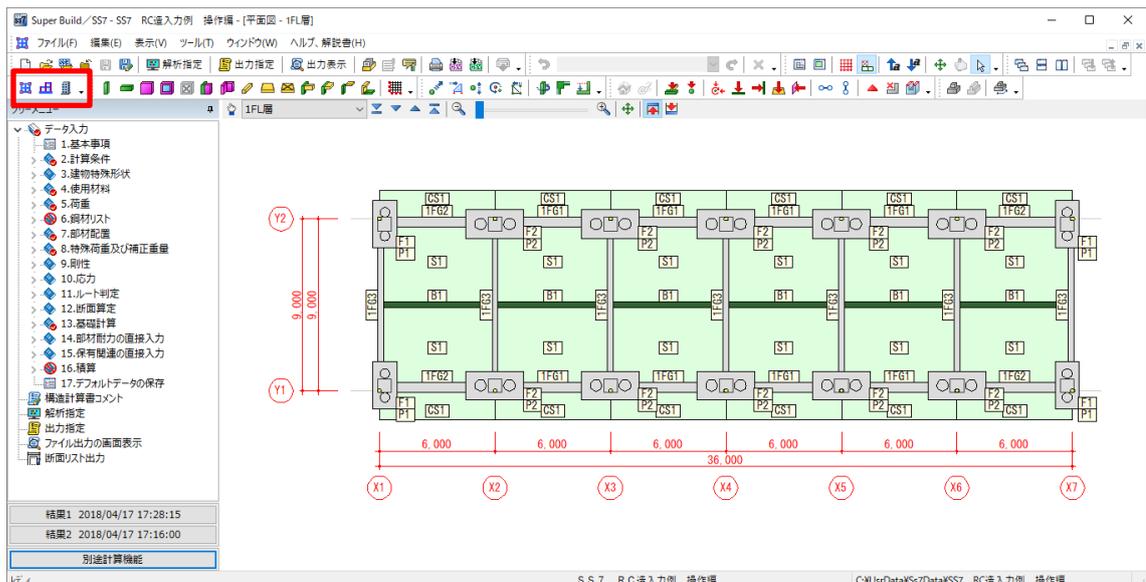
 をクリックすると全体イメージ図が別途表示されます。拡大した範囲が緑色で表示され、平面全体のどの部分が拡大されているかがわかります。全体イメージ図の緑色の範囲をドラッグして動かすことで、平面図が移動します。建物規模が大きくなると便利にご利用いただけます。

 左横のこのアイコンが「全体表示」です。拡大率が全体表示（初期状態）に戻ります。クリックして全体表示に戻して、全体イメージ図を右上の×で閉じてください。



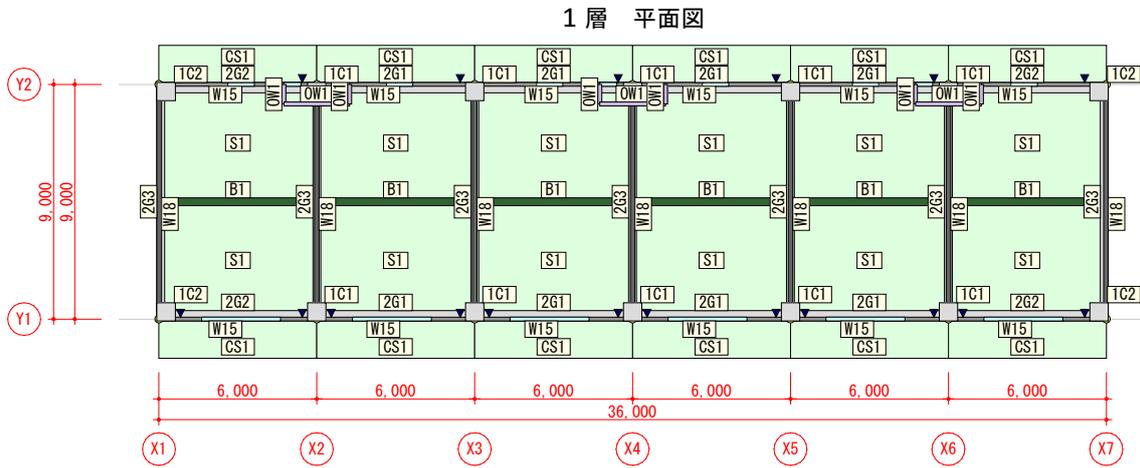
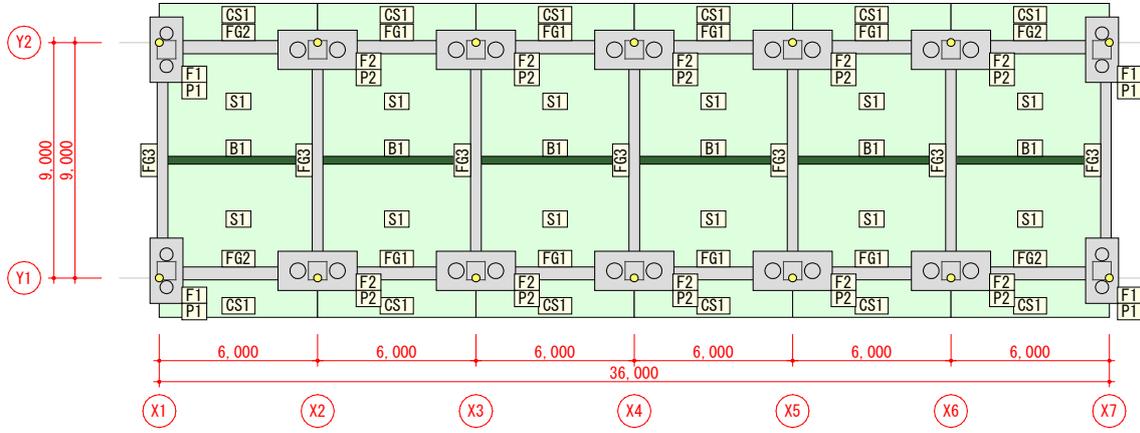
【平面図または軸組図または 3D 図の切り替え】

 平面図  軸組図  3D図のアイコンで切り替えできます。



【サンプルデータ】

平面図



立面図

